

平成30年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 国際コミュニケーション学部

フリガナ カゲヤマホナミ
氏名 影山穂波

研究期間 平成30年度

研究課題名 在外邦人の「居住空間」とジェンダー
～インド・チェンナイの日本人会に注目して～

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者			
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

本研究の目的は、経済のグローバル化によって急増する日本企業の海外進出にともない、アジアで生活を営むこととなった日本人の居住空間を、男女の生活のあり方注目し、ジェンダー視点から明らかにすることである。対象地域はインドのチェンナイである。インド南部の中心都市の一つであるチェンナイには、日産・ヤマハ・コマツなど 200 以上の日系企業が進出している。現地で結成された日本人会では交流会や祭りなどを通じてネットワークの拡大を図っている。2017 年現在 705 名の会員を擁しており、チェンナイに居住する日本人にとっては大きな存在となっている。構成員である駐在員やその家族、また現地採用の形で移住している人々から、現地の生活の課題と、日本人会の役割を調査し、居住空間の形成について明らかにする。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

インド・チェンナイにおいて活動を展開している日本人会を中心に、その活動の実態と参加者の意識を調査し、ネットワークの意義と現地への影響を検討した。具体的には、①日本人会の経緯と現在行っているイベントについて調査するために、新年会に参加した。会員は積極的に日本人会にかかわる活動を展開している。②活動参加者に対してチェンナイでの生活についてインタビューを行った。現地で生じる課題や今後の展望、ネットワークの意義、他の地域との比較などについて分析する。③領事館を通して、日系企業の現状と駐在員、とくに妻たちを中心とした生活について動向を調査し、海外生活において日本人女性たちが抱える課題を検討した。以上の調査を通して、ジェンダー視点から、在外邦人の居住空間についての研究を実施した。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

チェンナイの日本人会では各種イベントを展開する中で、ネットワークを深めている。例えば2019年1月20日に行われた新年会では子供を巻き込みながら、家族ぐるみで楽しめるイベントとして、MGM Eastwoods Hotelのステージと広場を借り切り、会員による出し物を楽しんでいた。新年会らしく、かるたとりや書初めができるコーナーが設けられており、buffet形式の食材はホテル提供のものだけではなく、お雑煮や日本食店から焼き鳥、その場でついた餅などが提供されていた。700人程度の会員のうち出席者は300人を超えており、多くの会員の交流の場となっていることが分かる。話を聞いていると、年間行事の中で最も盛り上がるのが忘年会だという。忘年会では新会員が30人程度ずつグループを作り、その単位で芸を競い合う。この仲間がチェンナイ駐在中のネットワークの基盤の一つとなっている。もう一つのつながりが各種同好会である。ゴルフ、テニス、合唱、写真、麻雀など運動系・文科系ともに会員が楽しめる場が用意されているのである。一部の活動にとっては新年会・忘年会などは成果発表の場でもあり、絆を深める機会にもなっている。

もう一つ駐在員をつなげる存在として、インターナショナルスクール終了後に行われる補習校がある。小学生の子供を持つ母親は、月～金に2時間行われる補習校への送迎に通うことになる。そこで形成される母親ネットワークも生活の基本的な情報交換の場となっており、チェンナイ生活を支える絆の一つであった。

チェンナイは交通の便が良好とは言えず、多くの駐在員は専用の運転手を雇っている。道路事情から言っても自ら運転するのは難しく、公共交通機関が不足しているため、移動は基本的に車となる。企業によっては、車を使わずに移動することを認めないこともあるようだ。こうした限られた行動空間の中で、日本人を中心とした企業内にとどまらない活動はチェンナイにおけるアイデンティティ形成の重要な役割を担っていた。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①駐在員	②日本人会	③チェンナイ	④ジェンダー
⑤居住空間	⑥ネットワーク	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他○名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

本調査の分析を進めたうえで、今後学会で発表し、大学紀要等で発表する予定である。今回の滞在では個別のインタビューが十分に行えなかったため、ジェンダー視点での検討は不足している。さらなる調査を行ったうえで研究を深めていくことが今後の課題である。